学ぶ喜びを体感し、励まし合い助け合って一人一人が輝く学校

たいさんぼく

平成３０年度 学校だより２月号
小平市立小平第十三小学校
http://www.kodaira.ed.jp/13kodaira/

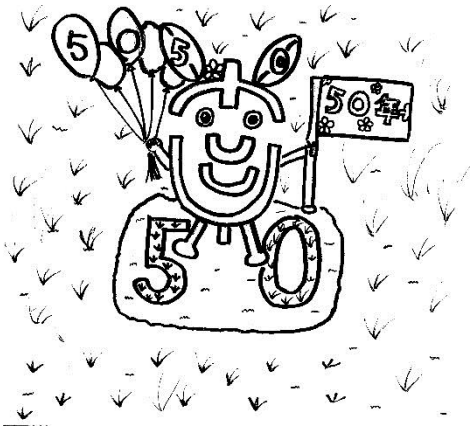
スノーフレーク（鈴蘭水仙）

主幹養護教諭　佐野　裕子

今年もまた、保健室の前に、スノーフレーク（鈴蘭水仙）の葉がまっすぐ空に向かって伸び始めました。夏と冬にはエアコンの室外機の風が強く当たり、春と秋には元気な子どもたちの足で踏み固められるという過酷な環境の中、２月の下旬になると、きれいな花が咲き私たちの心を癒やしてくれます。

私が、十三小の門を初めてくぐったとき、正門の前にきれいな花壇が広がっていました。手入れが行き届いた花壇を維持して行くには、たくさんの人たちが関わってくださっているのだろうと想像したとおり、たくさんのボランティアの方たちが活発に活動されている素敵な学校でした。季節ごとに変化していく花壇の花たちは、子どもたちや教職員だけではなく、来校されるお客様の心も和ませてくれています。

上を見上げれば、春はたくさんの「桜」が、「桜」の時期が終わると十三小のシンボルである「タイサンボク」が堂々とした大きな花でいっぱいになります。中庭では「ビワ」がたわわに実り、鳥たちが集まります。夏が終わる頃、「キンモクセイ」のいい香りが、芝生の上で元気に駆け回る子どもたちの鼻をくすぐります。秋の終わりには、裏庭にミカンが実ります。そして、冬、寒さに負けずに足下では、春の訪れを待ち望んでいるかのようにスノーフレーク（鈴蘭水仙）が姿を現すのです。スノーフレーク（鈴蘭水仙）の花言葉は、「純粋」「汚れなき心」だと言われています。まさに十三小の子どもたちにぴったりの花ではないでしょうか。

私たちは、日々の忙しさに追われ、ゆっくりまわりを見渡す余裕がなくなることがあります。そんなときこそ、視線を上に向けたり下に下ろしたりしてみると、自然の素晴らしさに心が触れ、気持ちが穏やかになります。

今年も、冷たい空気の中に凛と咲くスノーフレーク（鈴蘭水仙）の可憐な花と一緒に十三小の子どもたちの安全を見守りながら、心も体も健康な学校生活を送ることができるように保健室から応援したいと思います。